

持続可能な農業推進コン

茨城・真壁高が局長賞

GAPの実践・普及評価

【いばらき】茨城県桜川市の県立真壁高校は、関東農政局の2022年度「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」GAP（農業生産工程管理）部門で最高賞の局長賞を受賞した。継続的なグローバルGAPの取り組みを通じ、農業経営の改善などについて顕著な成績を取めたことが評価された。29日に、さいたま市で行われる授与式に臨む。

人の中の一人、農業・環境緑地科2年の猪瀬彩香さん（16）は「日々の取り組みは大変だが、気を緩めることなくGAPについて考えていきたい」と話した。

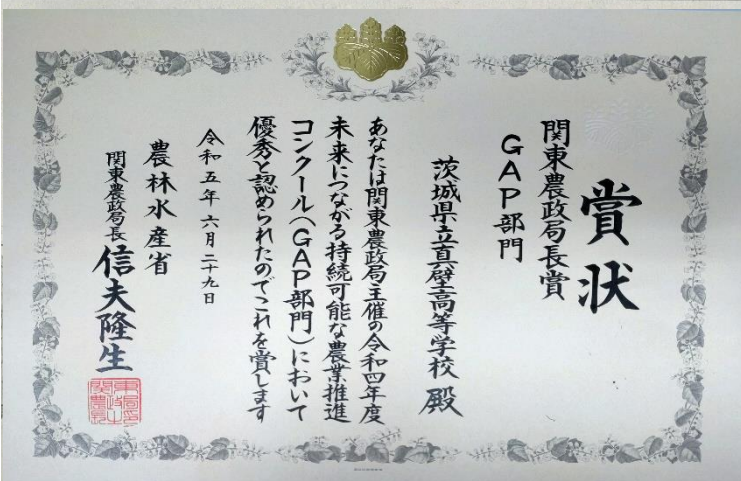
指導する小野力教諭は「GAPに取り組み中、生徒の生産者としての資質向上につながった。ブドウ、イチゴに続き、本年度は梨で認証取得を目指していきたい」と力を込めた。

同校は、世界を意識した農業経営者の育成を教育理念に掲げる。19年度にブドウ、21年度にイチゴでグローバルGAP認証を取得した。昨秋、県と連携した事業でマレーシアに「シャインマスカット」計64トンを輸出した実績を持つ。

今回の受賞は、グローバルGAPに取り組み同校の「整理」「整顿」「清掃」「清潔」「しつけ（習慣）」の5Sと、「見える化」「マニュアル化」の2Mを普段から実践していることが高く評価された。また、グローバ



ブドウの生育状況を確認する生徒（20日、茨城県桜川市で）



未来につながる持続可能な農業推進コンクール 関東農政局長賞及び特別賞授与式

